

# まきは通信

第22号

日本基督教団

愛知老人コミュニティーセンター

〒470-0111 日進市米野木町南山987-88

TEL. 0561-74-5548

FAX. 0561-74-5561

ホームページ <http://www.mb.ccnw.ne.jp/makiba>

E-mail [makiba@mb.ccnw.ne.jp](mailto:makiba@mb.ccnw.ne.jp)

発行日 2013年3月19日

発行人 鈴木 卓也

## 「天使が到来する明るさ」

日本基督教団 総務幹事 藤盛勇紀



2年前のクリスマス以来、「まきは」にお招きいただきましたのは2度目となりました。建物も新しく、クリスマスの季節ということもあるでしょうけれども、「まきは」の明るさが強く印象に残っています。今回、改めて気づかされましたが、「明るさ」の理由の一つは、窓の美しさでした。祝会の会場となった食堂で、ある方が指摘されました。窓の清掃が行き届き念入りに磨かれていて、窓があることすら感じさせないということです。なるほど、その窓から明るく差し込む陽の光は、外の寒さを全く感じさせず、窓からの眺望も、一瞬春を思わせるものでした。

クリスマスは、「まことの光の到来」とも表現される出来事です。真冬の暗さに象徴されるこの世の暗さを衝いて、敢えて世にいられた神が、すべての人を照らすまことの光としてご自身の命を注いでくださいました。「まきは」の明るさは、この光を映す働きのあるまきはなのでしょう。

「まきは」の証しは、ビジネス誌での評価としては数年連続で県内第1位、さらに今年度は全国第1位となりました。そして、施設長はじめ職員の方々は、なお大きなビジョンをもって大胆、誠実に事業を推進し、日々の細やかな配慮と行き届いたお世話に忠実に取

り組んでおられます。その姿勢が、まことの光への信頼に裏打ちされていることは、入居者の方々の明るい表情に映し出されると実感しました。日本基督教団のセンターとして、こうして良き証しを続けてくださっている「まきは」の輝きは、まさに私ども教団の誇りです。

今回のクリスマス礼拝でのお話の中で、「天使」に注目してみました。天使といえば、白い衣に大きな翼の若い女性や少年の姿というイメージでしょう。しかし、天使の登場は子どもたちを喜ばせるためにあるではありません。むしろ、生きることの厳しさや現実を知った人、あるいは失望したり当惑している人々に、決断と力をもって語りかける神からのメッセージです。

天使の翼は、宗教的な想像力が生んだものでしょう。けれども、信仰的な事実を伝えていると思います。あるカトリックの神学者は言いました。「天使は時間的、空間的な限界を知らない」。天使は、あらゆる時を超え、どんな高さも障害をも飛び越えて、私たちに近づいて来ます。私たちがいつ、どこに居ようと、あらゆる限界を超えて、必ず近づいてきます。そのような神のご決意を示すのが、あの翼なのです。

「まきは」には、今日もなお天使たちが日々近づき、明るく働いてくれていると、私は信じています。神が「遣わす」とお決めになったのなら、そして、「まきは」が神のみ旨による働きと証しを続けているのなら、そこには天使の働きがあります。入居者や職員の方々のみならず、地域の教会、教区の関係者の方々にも、それと気がつかなくても、天使が近づいているのではないのでしょうか。いや、お一人一人が主の御使いなのではないのでしょうか。



◀愛知牧場

# 同名ですが変質しました

愛知老人コミュニティーセンター運営委員長 篠田 潔



こういう題を見て「何のことか?」と思われるでしょうが、これは「まきば」のことです。この「まきば」が「日本キリスト教団愛知老人コミュニティーセンター」の営みとしてこんにちまで存続して来たことは、周知のことです。しかし、同じ名称でも、性格が変わりました。それは2012年12月における日本キリスト教団の常議員会において決められたことですが、その内容は、「『まきば』は、今後日本キリスト教団が責任を負うセンターとする」ということです。こういうことを聞いても「それは、はじめから、日本キリスト教団と銘打っている以上、そうではなかったか」と思われる方は少なくないと思います。

ところが、この建築が実現した時に、建築を決めた中部教区には、法人格がなかったために、保存登記ができませんでした。それで、日本キリスト教団の「愛知老人コミュニティーセンター」という名目で、教団の「特別財産」として登記したのでした。

ただし、教団は、もともと宣教を目的とした組織であって、有料老人ホームを建築するなど企図していないことであつたために、「まきば」が将来、何らかの法人になることとの約束のもとで、とりあえず教団のセンターとすることとして位置付けたのでした。しかし、もともと教団が意図して建築したのではなく、中部教区総会の決議によって建てられたものであるために、その設立責任は教区にあり、その経営責任は、教区が委嘱した理事による理事会が担う、という了解のもとに、「日本キリスト教団愛知老人コミュニティーセンター・シルバーホーム『まきば』」として発足したのでした。したがって、理事長は理事会の互選により、館長・施設長は理事会の選任によってなされたのでした。教団はその選任結果を承認する、という形を取ったわけです。

こうして、教団のセンターとして発足したのですが、日本キリスト教団の名が冠せられていることから、多くの方が、その責任主体は教団にある、と受け止めていたであろうことは否めません。入居者の中からも、「日本キリスト教団の名が冠せられている以上、ことがあった場合や将来の安全保障も、教団がしてくれるのですね」との確証が求められたのも、当然と言えば当然のことでした。また、教区総会においても「ことがあった場合の責任を教区が負うといっても、教区内の諸教会に負わされることにならないか」との質疑に長時間を要したこともありました。それは収支の

安定が危ぶまれたことがあったからです。幸いその後の経営は、長期的展望においても先ずは安定しており、日本一の施設との評価を受けるに至っておりますが、その後、教団では「センターの性格明確化」が課題となり、「まきば」にもそれへの応答が求められるに至りました。

「性格明確化」というのは、教団には、各地にセンターとしての12施設があり、その発足事情、目的、設備、人事、収支状況などが様々であることを考えると、これは、「センター」というよりは、株式会社、社会福祉法人、社団法人など、それぞれ固有の性格を持った法人となることが望ましいというので、その明確化が求められ、各センターはそれぞれに依拠して法人化を検討し、その意向を表明したのでした。

「まきば」は、教団による「センター明確化推進小委員会」発足以来、何回も「どうします?」と問われましたが、理事会では、最初から「日本キリスト教団のセンターである以外の選択はありません」と言い続けてきたので、それが承認されたのです。

その結果、名称はそのままとして、基本的には以下の点で運営の責任の所在が教団にあることが明らかにされました。

- 1.センターの運営は、常議員会の決議に基づいて運営委員会がおこなう。
- 2.運営委員会は、常議員会に対して責任を負う。

細部のことはともかく、これによって、特にはっきりしたことは、次の2点です。

- 1.従来の「理事会」は「運営委員会」となり、運営委員会は教団総会議長指名による者と、常議員会にて選任された者によって構成される。
- 2.センターの財産状況および業務執行の状況を監査する「監事」は、常議員会において選任する。

この決定によって「まきば」は、実質において「日本キリスト教団」が責任を負う「センター」であるという性格が明確化されたこととなります。喜ばしいことであります。

とはいうものの、そうであるだけに、運営委員会の責任は重大であります。その担い手である運営委員は、旧理事会のメンバーであり、ことが急変することはありませんので、以上の報告に併せ、引き続き、大方の変わらぬご支援とご加禱とをお願いする次第であります。

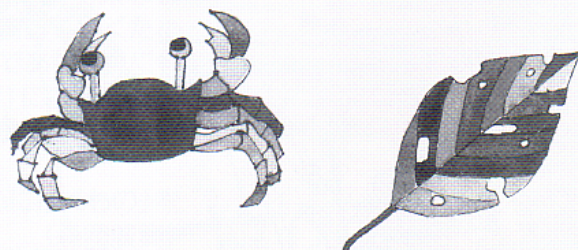
## 介護相談室からの報告

愛知老人コミュニティーセンターのはたらきは、シルバーホーム「まきば」の経営だけだと思っておられる方も多いようですが、他にも日本キリスト教団の中にあって、「老人問題」にかかわる様々な働きをしています。

その中の一つが、「介護相談窓口」の設置です。センターのスタッフだけでは答えられない相談については、シルバーホーム「まきば」の専門スタッフが協力して相談に当たります。それでも専門外になる時は、近隣の愛知国際病院や老人保健施設「愛泉館」に協力を求めて対応することもあります。

信徒の方から直接電話をいただくこともあります。相談を受けた教会の牧師さんからの問い合わせもあります。

よく「こんなこと聞いてもいいでしょうか?」と、戸惑いを持って電話をいただくことがありますので、ここでよく受ける質問を例示してみます。



これは、これまでにあった質問の内の、ほんの一例です。

- 家族が認知症になったと思われるが、本人が強く否定している。どう説得したらよいか?
- 家族が老人ホームに入っているが、虐待を受けているのではないかと心配している。施設に言っても取り合ってくれないが、よい方法はないか?
- 親を特別養護老人ホームに入れたいが、満員で当分入れないと言われている。早く入居する方法はないか?
- 今入っている施設から“胃ろう”の手術をするように勧められている。気が進まないがどうしたらよいか?
- 現在入院している病院から退院を迫られているが、家に帰っても対応できないので困っている。どうしたらよいか?
- 有料老人ホームを探しているが、近くて料金の安いところを希望している。良い老人ホームを探すには、どんな点に注意したらよいか教えてほしい。
- 介護が必要だが信仰を守りながら生活したい。「まきば」への入居は無理なので、どこか他のキリスト教系ホームを紹介してほしい。

介護は今、社会問題になっています。「愛知老人コミュニティーセンター」は中部教区の中にあって、教会が直面する介護の問題に取り組んでいます。どんなことでも、お気軽にご相談ください。

**相談は無料です。**

**0561-74-5548**にお電話ください。

時間は、月曜日から金曜日の午前10時から午後5時までをお願いします。



# みなさんこんにちは! 今日はニャン太が「まきば」の生活の様子を紹介するヨ!



皆様がどのように生活を楽しんでいるか、「まきば」の毎日を知りたいと思ってる人はいないかな? 今日、ニャン太が「まきば」の日常を紹介してあげるヨ!

## クラブ活動



いろんなクラブがあって、気の合う仲間と楽しんでいるんだ。これは囲碁のクラブだヨ。



## 理美容



毎月、理容師さんと美容師さんが3回も来てくれるんだ。カットばかりじゃないヨ。カラーだってパーマだってしてくれるんだヨ。



## 牧場の散歩

退屈な時は愛知牧場の散歩が一番だ。こんなに散歩コースに恵まれたホームは他にないヨ。健康維持にも最適だヨ。



## 南山教会礼拝

日曜日は南山教会からバスが迎えに来てくれるヨ。若い人たちと一緒に聖日礼拝に参加できて、みんな感謝してるヨ。



## アクティビティー・プログラム

毎日、いろんなプログラムが組み立てられているんだ。この写真は、絵画の先生と写生を楽しんでるところだヨ。

「朗読の会」もあるヨ。元KBS京都放送アナウンサーの黒田斐子先生がボランティアで、様々なジャンルの文学作品を朗読してくれるヨ。



## 愛知国際病院 聖書集会

火曜日の夜は、真向いにある愛知国際病院の待合室で聖書集会があるヨ。  
「まきば」からもたくさん参加するんだ。



## 花の日訪問

花の日には毎年、名古屋中村教会の子供たちが庭に花を植えてくれるヨ。  
みんなでプランターいっぱいにいるんな花を植えるんだ。にぎやかな時間だヨ。



## 行楽



春と秋には、みんなで行楽に出かけるヨ。最近、コンサートや観劇に人気があるネ。  
レストランに寄るのも楽しみひとつだ。



## 展望風呂

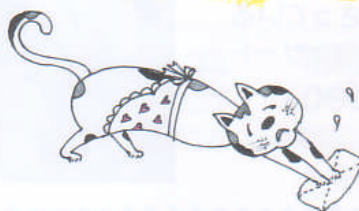
最上階には、牧場の緑が見渡せる「展望浴場」があるんだ。  
夕日で赤く染まった大十字架を見ながらのお風呂は最高だヨ!



## 特別食

毎月、特別料理の日があるヨ。写真は「焼き松茸とざる蕎麦」だ。そば職人が来て、信州の蕎麦粉を目の前で打ってくれるヨ。

寿司の日には、寿司職人が握りたてのお寿司を食べさせてくれるし、フランス料理の日にはシェフが来て料理を楽しませてくれるヨ。  
とっても楽しみな行事なんだ!

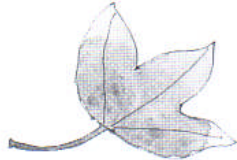


キャラクター作成：谷 勝子(看護職員)

# まきばトピックス

## 永年勤続者表彰がおこなわれました

「まきば」が開設15年を迎えたのを期に、10年以上の勤続者5人が理事会から表彰を受けました。



## 昨年もクリスマス諸行事がおこなわれました

### 「まきば」クリスマス礼拝・祝会

12月7日には「まきば」クリスマス礼拝をおこないました。教団本部からお越しいただいた、藤盛勇紀総務幹事からクリスマスのメッセージをいただきました。その後、恒例の祝会を、入居者の皆様を始め、理事・監事、近隣教会のお客様をお迎えして、食事を共にしながら楽しいひと時を過ごしました。



### 「ぶどうの会」クリスマス礼拝・祝会

愛知国際病院を中心とした近隣施設職員の集まり「ぶどうの会」が、「まきば」礼拝室を会場にクリスマス礼拝をおこないました。礼拝の後、食堂に席を移して、施設報告など情報交換と親睦の時を持ちました。



### クリスマス・ミニコンサート

毎月、定期コンサートで楽しませてくださっているシャ・ノワールの皆様が、12月はクリスマス・コンサートとして、名曲の数々を聞かせてくださいました。



## 職員による合唱団が発足しました

讚美歌を歌いたいという職員有志が集まって、「まきば」合唱団を結成しました。12月11日、入居しておられる皆様が夕食を終えた食堂で第1回の発表会を行いました。鳴り止まない拍手に感激しましたが、アンコール曲までは練習ができていませんでした。



## 名古屋中学・高等学校合同クリスマス礼拝

名古屋学院から約30名の生徒さんが今年も訪問してくださり、共にクリスマス礼拝を捧げました。その後、聖歌隊の皆様の賛美、オーケストラ部の皆様によるコンサートが開かれ、楽しいひと時を過ごしました。



## 「聖書の集い」クリスマス礼拝

毎週金曜日に開催している「聖書の集い」も、22日はクリスマス礼拝としておこないました。南山教会の大島牧師による聖餐式も執り行われ、イエス様のご降誕を厳粛の内に祝いました。



## クリスマス・キャロル

毎年恒例になった聖歌隊の来訪が、今年も24日にありました。刈谷教会の皆様と南山教会の皆様がお越しくださって、クリスマスの雰囲気が一層盛り上がりました。



刈谷教会の皆様



南山教会の皆様



## まきばトピックス

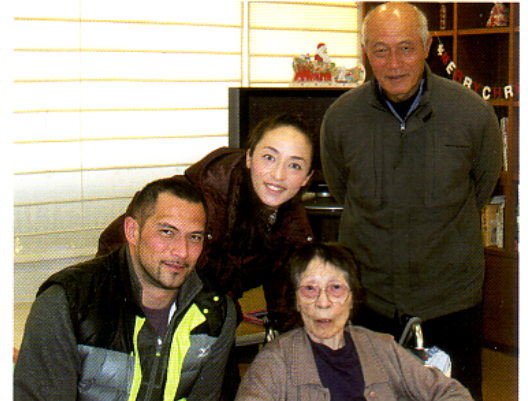
### 室伏広治選手がロンドンオリンピックで銅メダルに輝きました

昨年ロンドンで開催されたオリンピックの陸上男子ハンマー投げにおいて、「まきば」で生活しておられる室伏八四様のお孫様、広治選手が銅メダルを獲得されました。室伏選手にとっては、アテネの金メダル以来二つ目のメダルになりました。ロンドンから帰国後すぐにメダルを持って「まきば」を訪れ、八四様に報告されました。

「まきば」では、特にオリンピック期間中、室伏選手に心配をかけない介護を心掛けました。室伏選手は、表彰式後のテレビインタビューで「このメダルが取れたのは、支えてくださった皆様のおかげです」と答えておられたので、「『支えてくださった皆様』の中に『まき

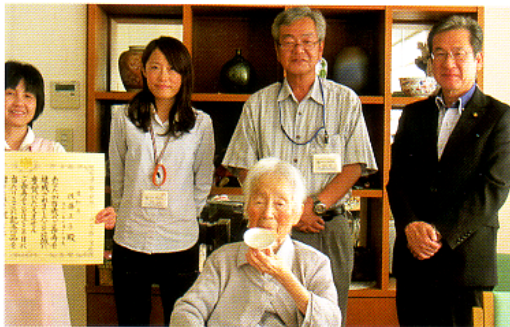


ば』の職員も入っていますか?」と伺ったところ、即座に「もちろんです!」という力強い答えが返ってきました。このメダルが、陸上種目で日本が取った唯一のメダルになりました。



### 内閣総理大臣から百歳のお祝いを 受けられました

後藤正子様がお祝いを迎えられる、内閣総理大臣から賞状と記念の銀杯が贈られました。後藤さんは「まきば」設立当初から入居され、百歳の今もお元気に毎日の生活を楽しんでおられます。



### 職員が受洗しました

昨年のクリスマスに、職員の中村雅紀さんが南山教会で洗礼を受けました。職員としては3人目の受洗になりました。



### 編集後記

私達の周りの「形あるもの」に目をむけてみると、わかることがある。どんなに立派な建物や組織であっても、いつまでも在り続けることは出来ない。それは、「形のないもの」、即ち、「ひとが心に描くもの」を実現していくために次つぎと移り変わっていくものである。言い換えれば、手段であり道具に他ならない。「まきば」が「日本一」の評価を得たことも、「まきば」において実現したいと強く願い心に描いたものがあり、それに添って努力する中で生み出されたものだと思う。

大切なことは、これからも「まきば」の将来にむけてその「心に描くもの」をいつまでも持ち続けていくことではないか。

(森岡廣實)

